

# 週刊 ヤマケイ

通巻  
300  
号記念

感謝御礼号

2018/06/14

## 週刊 ヤマケイ

おかげさまで 300 号



## 『八月の六日間』(北村 薫)

連載第 18 回(著者=小林千穂/山岳ライター・編集者)



『八月の六日間』北村 薫 著/角川文庫/640 円+税

### 山へ行きたくなる小説

いっしょに暮らしていた恋人と別れ、幼なじみを亡くし、忙しい職場では「出来る男」だと思い込む上司の下で自分を抑える日々。どんよりした不調が重なる 38 歳の女性編集者・わたしが心を開きに行く場所、それが山だ。

主人公のわたしが行く山として小説内に描かれているのは、燕岳～大天井岳～槍ヶ岳～上高地の表銀座ルート、裏磐梯スノーシュートレッキングのツアー、上高地～蝶ヶ岳～常念岳～燕岳の常念山脈縦走、残雪期の北八ツ・麦草峠～白駒池～高見石～渋ノ湯、そして折立～薬師沢～雲ノ平～高天原温泉～三俣蓮華岳～双六岳～新穂高温泉の黒部源流域と、なかなかハードな場所ばかり。この5つは主人公にとっても特別な山行で、これらの山やさまざまな人との出会いを通じて、心のバランスを保ち、過去のとある出来事を受け入れられるようになっていく。

小説の中では絶景の稜線を歩く時のお酒に酔ったような酩酊感、長い縦走を終え現実世界へ戻る憂鬱さ、不安にさせるほどの静寂さを持つ雪の山など、山が好きな人がどこかで感じるものが、見事に表現されていて、読んでいるうちに山へ行きたい衝動が湧いてくる。

主人公が山を歩くところは、まるで雑誌のルポを読んでいるようだ。槍ヶ岳で山小屋に着くのが遅くなったり、連休直後の山行で帰りのバスが運行していなかったりと、主人公が失敗しているところもリアル。実際に山を知らなければ書けないことだと思うが、ミステリー作家として名高い北村さんが山を歩くという話は聞いたことがない。

その種明かしは巻末の解説にあった。やはり著者は山には登らずに、これを書いたそうだ。登山をする人に取材をしたり、さまざまな資料を参考にしたという。私など、実際に目にして体験したことでも文字にするのに苦労しているというのに、自分すら行ったことのない世界に多くの人を引き込めるのだから、まったく、小説家はすごい。

## 主人公の本選びに注目

---

さて、主人公の「わたし」は山へ行く時に必ず文庫本を数冊持っていく。常備薬と同じで、本を持っていないと不安になるそうだ。山行の直前、持っていく山道具を揃え、甘味と塩味のバランスを考えながらお菓子を袋に詰める。そしてそれらをパッキングし終わり、いつも山行準備の最後にするのが本選びだ。主人公は数あるであろう本の山のなかから、その山行に合わせて本を選ぶ。

実はこれ、私もよくする。文庫が並ぶ書棚の右上から左へ背表紙のタイトルをざっと目で追い、家を出る直前に持っていく本を決めるのだ。これから行く山への期待と不安に胸を膨らませながら、ともに山旅をする「友」を選ぶわずかな時間。これが、とても楽しいひとときだったりする。といっても、いろいろ考えながら選んだわりに、結局はこの小説の主人公と同じように、山ではあまり開くことなく、カバーだけがくたびれた本を家に持って帰ることも多いのだけれど……。

この小説の主人公がどんな本を選ぶのかも見どころなので、お楽しみに。

今回紹介した本(リンクは Amazon)

『八月の六日間』

<https://www.amazon.co.jp/dp/4041042178/>

著者ブログ

山でわくわく

<https://ameblo.jp/chihokobayashi/>



## 谷川連峰・平標山、仙ノ倉山

ハクサンイチゲとハクサコザクラ咲く花の稜線

---



ハクサンイチゲの大群落 (写真=小瀬村 茂)



シャクナゲ(背後は仙ノ倉山)(写真=小瀬村 茂)

6月8日、晴れ

---

平標(たいらっぴょう)山はハクサンイチゲが咲く山として知られていますが、今年はシャクナゲが数年ぶりの当たり年と知り、梅雨入り直後の晴れ間に登ることにしました。

コースは平標山登山口駐車場から松手山、平標山を経て仙ノ倉山までの往復です。階段が続く松手山までの急登をのぼりきると視界が広がり、振り返ると背後に苗場山が見えてきます。松手山が平標山へのほぼ中間点で、ここからは見晴らしのよい展望尾根の登山道に変わります。

夜明け前に登り始め3時間ほどで平標山に到着しました。山頂では越後駒ヶ岳や中ノ岳、八海山など越後の山々の稜線が展望できます。

ここから仙ノ倉山へ向かって少し下った鞍部付近が平標山いちばんの花畑です。白いハクサンイチゲの大群落の中に赤いハクサコザクラや黄色のミヤマキンバイが点在して咲き誇っていました。花が見頃になるこの時期は多くの登山者が訪れて混雑するところですが、日が昇り始めたばかりの早朝のため今はわずか数人だけで、静かな木道歩きが楽しめました。

ハクサンイチゲの花畑の中に大きなベンチがあるので、花の咲く時季には平標山の山頂よりもこちらでの休憩がいいでしょう。

鞍部を登り返した小高い尾根沿いに今回目当てのシャクナゲが咲いていました。しかしこちらはすでに花は終盤でした。それでも山腹の至るところにシャクナゲが咲いていて、花の盛りを逸してはいたもののきれいな遅咲きの花を選んで写真に収めました。

(文=小瀬村茂/山岳写真工房)

#### 参考書籍

アルペンガイド『谷川岳・越後・上信越の山』

<https://www.yamakei.co.jp/products/2812013640.html>